

暮らしを楽しく快適にするリフォームマガジン

DAIKEN
REFORM
MAGAZINE

ダイケンリフォームマガジン



防音室で夢実現！ 歌も楽器演奏も OK!! 仲間と気兼ねなくセッションできる部屋づくり

音楽は生活を豊かにしてくれるもの。気に入った曲を聞くのもいいですが、歌を歌う、楽器を演奏するなど、音楽は一生楽しめる趣味にもなりますし、心と体の健康にも良いといわれています。特に、楽器演奏を趣味にしている人なら、自宅で仲間たちと思う存分セッションできたら最高ですよ。

とはいえ、ちょっと練習するだけでも音漏れが近隣への迷惑になるのでは、と気になるケースもあるでしょう。

最近では、在宅勤務の普及などにより自宅で長い時間を過ごす人が多くなり、マンションだけでなく戸建住宅でも音に関するトラブルが増えているようです。そんなことから、自宅でセッションなんて、夢のまた夢……。

しかしながら、DAIKENの住宅用防音建材を使ったリフォームなら、自宅でセッションの夢を叶えられるかもしれません。天井や壁、ドアなどを防音建材に変更することで、いつ

もの部屋を防音に配慮された空間に変えることが可能です。

今回は、DAIKENの防音建材を使った部屋づくりについてお伝えします。

楽器好きの夢、自宅セッションを叶えられる！？



楽器を演奏するのが楽しみだけど、近隣への音漏れの配慮から自宅で練習するときはできるだけ音が出ないようにしたり、ヘッドフォンをしている人は少なくないでしょう。せっかくなら自分で音の響きを確かめながら練習したいですし、音を出さずに演奏してもあまり楽しくありませんよね。しかし、騒音トラブルに敏感な現代、戸建住宅ではあっても、近隣への音の配慮は欠かせません。

外部への音漏れを気にせずに楽器を演奏できる空間といえば防音室ですが、防音室をつくるとなると、壁や天井を壊すような大がかりな工事が必要で費用もそれなりに高額になります。本格的な施工が不要なユニット式のいわゆる防音カプセルもありますが、こちらを設置すると部屋がその大きさの分せまくなってしまいます。やはり、自宅で思う存分楽器を演奏するのは、むずかしい……？ でも、あきらめるのはまだ早いかもしれません。

DAIKENでは、天井、壁、床、ドア、換気扇といった防音建材をご用意しています。これ

らの部分に防音建材を組み合わせて使うことで、音が外にもれにくく、楽器の音がクリアに響く部屋にできます。近隣との騒音トラブルを防止でき、室内での音の響きもよくなるので、一石二鳥ですね。DAIKENなら、近隣との距離や使用時間帯、音源の大きさ等に合わせた最もコストパフォーマンスの高い組み合わせを無料でご提案しているので安心して採用していただけます。

また、こうした防音建材への変更は通常のリフォームと同様の施工なので、ユニットの様に大きく、部屋の面積がせまくなるといったこともありません。

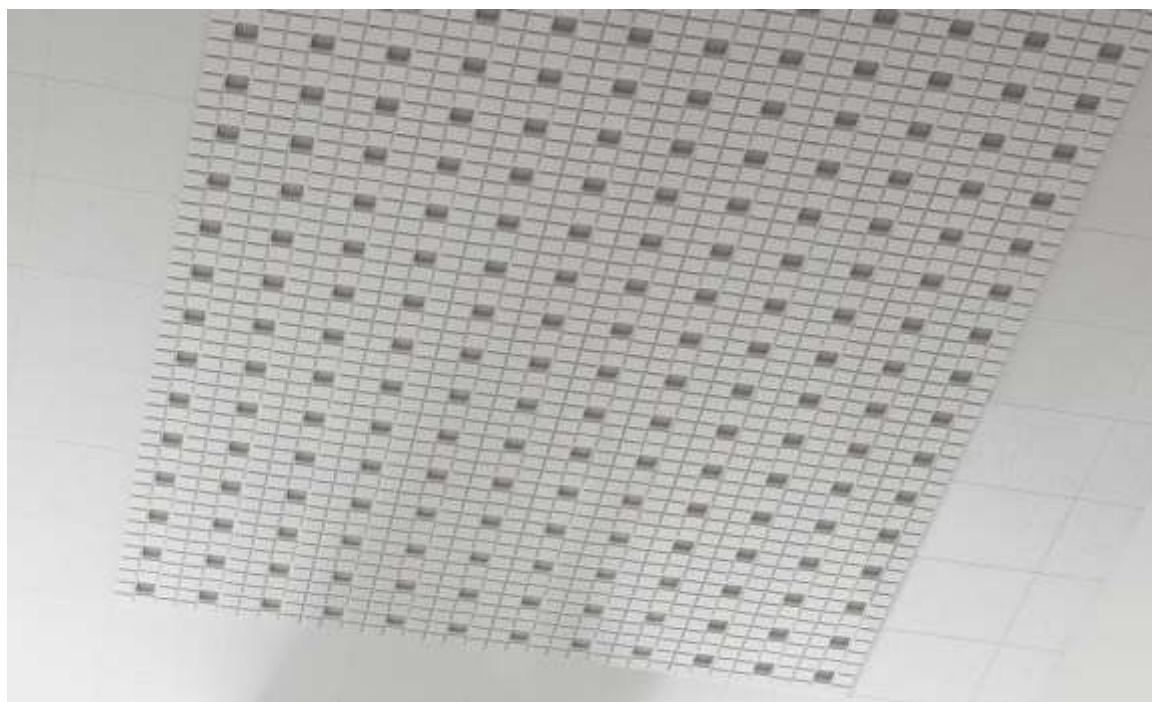
では、少し詳しく DAIKEN の防音建材をご紹介します。

部屋全体を防音建材で囲って防音室に！

住宅の部屋は天井と壁、床で構成されますが、このそれぞれに防音効果のある建材を使えば、部屋全体を防音できます。

まず、ギターやピアノなどの楽器を演奏するお部屋の天井におすすめなのが、吸音と遮音性能を持つ『オトテン』シリーズの天井材です。

天井を『オトテン』にすれば、屋外への音漏れを少なくしながら、室内の音の響き過ぎをおさえることができるので、クリアな音で演奏が楽しめます。



次に、壁材には、高い吸音性能を備えた『オトカベ』シリーズもありますが、さらにお施主様が手軽に音響を微調整できる『オトピタ』シリーズをご用意しています。こちらは、後付けタイプの壁材で、手軽に取り付けることができ、あとから配置を簡単に替えることも可能です。



そして、床には木造住宅用床遮音下地材『遮音マット』をフローリング材の下に敷き込むことで、音が階下に伝わるのを軽減します。特に2階以上の部屋の床リフォームのときには、ぜひ施工したいですね。



『オトデン』と『オトピタ』シリーズでは、表面のテクスチャーが吸音性能に大きく関係しますが、いずれもスタイリッシュにデザインされています。また、『遮音マット』は床の下地材なので、表面の床材は好みの色やデザインのものが選べます。

こうした DAIKEN の防音建材を部屋全体に使えば、デザイン性にもこだわりながら、楽器に適した音の響きの防音空間が出来ます。

また天井・壁の下地に遮音パネルを入れる事で、音漏れについても更に小さくする事ができます。

音漏れしやすいドア、換気扇もしっかり防音

これらに加えて、住宅の防音で忘れてはいけないのが、音漏れしやすいドアなどの開口部です。DAIKEN の『アドバンス (A) 防音タイプ』シリーズは、レバーハンドルでのロックとすき間をくまなく埋める大型パッキンで気密性を高めています。その高い気密性と扉の重さにより音漏れをおさえます。



このように天井、壁、床、ドアに防音建材を使ってリフォームすれば、心おきなく楽器を演奏できる防音ルームが出来あがります。

とはいえ、ここで、気になるのが換気ではないでしょうか？ 開口部を閉め切ることで防音性能がじゅうぶん発揮されますので、お部屋の防音を高めると気密性が高まります。一方で、快適で健康的に暮らすためには室内の空気の入替えが非常に大切です。

現代では、戸建住宅にも 24 時間換気が義務づけられています。また、換気扇の開口部か

ら外部への音漏れは意外に大きいため、防音ルームでは換気も注意すべきポイントといえます。

こうした条件に対応できるのが防音タイプの換気扇です。『DK ファン NK』 + 『A 防音フード』より高性能の DAIKEN の『防音ダクト換気扇 32C 型』は大風量・低騒音に設計されており、長い時間部屋を閉め切っても遮音しながら空気をクリーンに保ちます。これなら、快適な環境で演奏に集中できますね。



家で過ごす時間が増えたいま、自宅で趣味に打ち込める環境を整えたいものです。音楽を心おきなく楽しみたいなら、デザイン性にも優れた DAIKEN の防音建材でのリフォームを検討されてはいかがでしょうか。

ただし、各防音建材単体で防音性能を発揮できるわけではなく、組み合わせのトータル提案で防音室は完成します。

そして防音室は、車と言えば軽、普通車、バン、高級車、スポーツ車の様に用途に合ったグレード・車種選びが大切で、DAIKEN なら防音室のグレード・防音建材を自由に選べるのが大きな強みです。

※防音室のグレードについては、下記ページをご参照ください。

建築音響製品 防音プラン

<https://www.daiken.jp/product/lp/sounddesign/plan/>

防音室を導入して、自宅で気兼ねなくセッションできる感動を味わってみませんか。



【DAIKEN リフォームマガジン 2020年10月号掲載】